

## 子育てコラム 38

### 性教育（命の教育）その2

保護者の方からさまざまな機会に子どもの性について話を伺います。3歳の子から「どうやって生まれるが?」って聞かれた。4歳の子から「どうして私は生まれたが?」って聞かれた。5歳の子から「どこから生まれたが?」って聞かれたけど何と答えたらいいか。何歳頃にそのような話をしたらいいでしょうか、などです。

子どもによって関心を持つ時期は異なります。子どもから聞かれたらその時に話をしてあげましょう。子どもから聞かれた時、親の準備ができていない、突然のことで動揺した、まだ早いと思ひ返事をしなかった、ということがよくあります。さあ困ったどうしよう、何と伝えたらいいか、だれかに相談してみよう、ネットで探してみよう、でもまだ早いと思うのもうちょっと理解できるようにしてから話をしよう、今度聞かれるまで黙っておこう、このような状況ですぐ数か月が経ってしまいます。結局、その後子どもから聞いてこないのでもいいかなと思ひ話をしていないというご家庭は多いようです。子どもは、親の態度や表情、言い回しに敏感です。親に聞いたらずいみたいと思ひてしまいます。

小学校では1年生から「命」について授業で学びますが、まだまだ学校によって性教育の考え方も内容も異なります。体系的に継続して性教育を行っている学校もあれば、単発的に行っている学校もあります。

何歳であっても子どもから聞かれたときが話し時です。すぐに答えることができなくても、「大切なことだからあとでお話しするね」と、こころの準備をしてから話をしてあげましょう。

「赤ちゃんはどうやってできるが?」それを聞くのは、自分がどうやって生まれてきたのか、自分の命はどうやってできたのかということを知りたいからです。

性教育は生きる力を育みます。自分の存在を知り、自分を大切にすることができる自尊感情への道しるべとなります。